

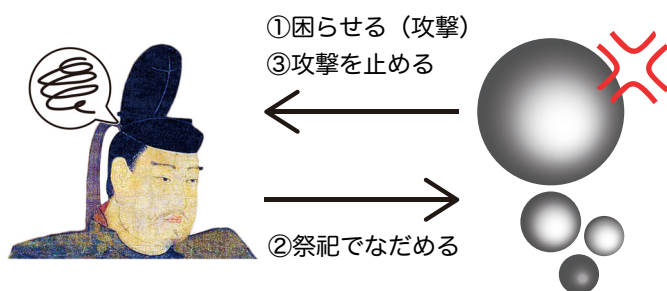
天平文化（2）

6世紀に公伝した仏教は、7～8世紀にかけて発展した。特に8世紀には、鎮護国家の思想のもとに「国分寺建立の詔」「大仏造立の詔」が出され、大きく歩みを進めた。仏教は国家のために優先され、僧の活動は様々な面で規制された。また、日本古来の神祇信仰のなかに仏教を浸透させるため、神仏習合が進められていった。

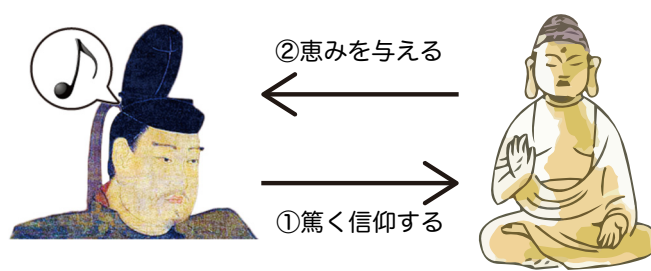
○奈良時代の仏教

●人と神仏の関わり

<人と神>



<人と仏>



仏が個人に与える恵みは現世利益
仏が国家に与える恵みは鎮護国家

人々は神仏の違いをはっきり理解しなかったが、とりあえず仏の方が優れていると考えた。特に奈良時代の「仏の力で国家を安定させること」を⁽¹⁾ _____ と呼ぶ。国家管理下で仏教（寺院建立・仏像造立）に力が注がれ、^{ぎょうき}行基のような民間布教は弾圧された。

●神仏習合—意図的な働きかけ

奈良時代、仏教者は仏教を浸透させるために、

神祇信仰の要素を仏教信仰に加えながら布教した。

⇒神祇信仰と仏教信仰の融合を⁽²⁾ _____ という。

◇(2) …当初この考えは、漠然として理屈もなく、
平安時代に^{ほんじすいじゃくせつ}本地垂迹説として理論化

↓
神社の近辺や境内に神宮寺が建てられるようになった。

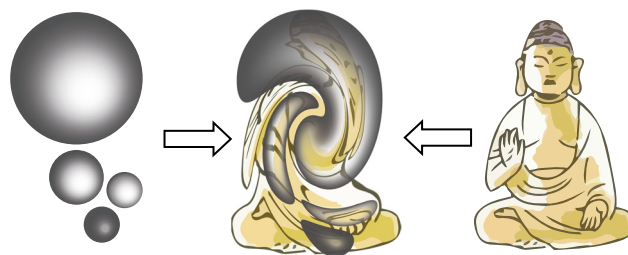


図1 神仏習合による「神=仏」の考え

●仏教の6学派

仏教は釈迦の教えに従う宗教であるが、釈迦自身は教えを文字にしていない。

⇒年月が経ち、弟子たちが釈迦の言葉を「経典」にまとめた。

⇒まとめた内容に差異があり、経典は何種類にも分かれた。

↓
僧は「この内容が釈迦の正しい教えだ」と思う経典を派閥ごとに研究した。

⇒奈良時代、⁽³⁾ _____ と総称される6つの学派が研究に力を注いだ。

◇(3) …^{さんろん}三論宗・^{じょうじつ}成実宗・^{ほっそう}法相宗・^{くしゃ}俱舍宗・^{けごん}華嚴宗・^{りつ}律宗

◇律宗…戒律（僧の守る規範）を日本に伝えた鑑真が、後に開いた学派

●唐僧の招来

当初、日本では「受戒（僧になるための儀礼）」なしで僧になれた。
 →そして、僧になると税を免除された。
 ⇒読経もできずに、勝手に出家を宣言して僧となった^{しどそう}私度僧が続出した。



「受戒」を義務化したいが、それを執り行える僧が日本にいなかった。
 ⇒唐から僧を招いたところ、753年、⁽⁴⁾ _____ が渡来して戒律を伝えた。



図2 鑑真像（技法：乾漆像）

●国家管理下の仏教

仏教は国家の管理下に置かれ、民衆への布教活動などは禁止されていた。



⁽⁵⁾ _____ は民衆のために社会事業（橋・道路・灌漑施設の整備）に努めた。
 →（5）は民衆への仏教布教にも努め、民衆の支持を受けたので弾圧された。
 ⇒その後、聖武天皇は大仏造立に（5）の力を利用しようと弾圧を止めた。



図3 行基

○天平の美術

●2つの技法

当時の仏像の作り方は、金銅像の他に次の2種類が主流であった。

- ①⁽⁶⁾ _____ …原型の上に麻布を幾重にも漆で塗り固め、後で原型を抜き取る像
 材料の漆が貴重で高価
 ⇒高価な像で、本尊（寺の主要な像）はこの技法で作成
- ②⁽⁷⁾ _____ …木を芯として粘土を塗り固めた像
 材料が粘土のため、（6）と比べて安価
 ⇒本尊の周囲に配置される仏像はこの技法で作成



図4 乾漆像

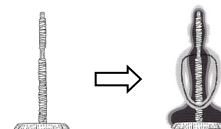


図5 塑像

●各寺院の仏像

<東大寺法華堂>

⁽⁸⁾ _____ （乾漆像）

日光・月光菩薩像（塑像）

執金剛神像（塑像）



図6 月光菩薩像



図7 不空罽索観音像



図8 日光菩薩像

<東大寺戒壇院>

四天王像（塑像）

<唐招提寺>

鑑真像（乾漆像）

<興福寺>

⁽⁹⁾ _____ （乾漆像）



図9 執金剛神像



図10 四天王像



図11 阿修羅像